

研究プロジェクト6 「立教学院の戦後」

宮川 英一

昨年度に引き続いて、本年度も新規のインタビュー調査については、新型コロナウイルスの蔓延により中止した。来年度以後は、立教関係者へのインタビューを実施し、『立教学院一五〇年史』編纂の資料とする予定である。

また、立教大学の戦後史の基礎史料である「立教大学庶務課文書」については、昨年度に基礎的な整理が完了し、現在、本資料に所収される細目史料を点検しつつ、センターの内部用のデータ・ベースに同資料の細目レコードを蓄積する作業をすすめている。なお、同資料の保存のため、二〇二〇年度より、保存容器の入れ替え作業を進めている。保存容器への入れ替え作業は、昭和四一年度分まで終えた。加えて、学内発行紙誌の『ニュース・セントポール 立教大学校友会会報』（第一号、一九五三年より第二七四号、一九七六年、号外含む）およびその後掲誌である『セントポール 立教大学校友会会報』（第一七五号、一九七六年より第四三七号、二〇一

六年）の第一号から第一〇九号および第二八三号から第三一〇号までの記事見出し一覧データを作成し、内部用のデータ・ベースに蓄積して、年史編纂の基礎資料とした。以上に述べた資料の整理作業や記事目録の作成のほかに、旧大学史資料室から移管された資料の保存・修復処理や戦後立教大学の各部署で作成・保存されてきた文書群を新規に受け入れた。新規に受け入れた文書群はたとえば、「経理課移管資料」、「学生部移管資料」（二〇二一年度分）などである。これらについても順次、整理・保存を進めて立教学院の戦後史の資料として活用していきたい。

【宮川】

以上